



TOMATO畑のストップ薬剤木製食器 職人の心意気は「安全と安心」

パートⅡ

んは「商品開発に役立たせていただきます」と喜んでいきます。

私共も初めて知る、一部木製食器の薬品浸けの実態に驚愕し、何より問題は、安全な食器と危ない食器の見分けがつかないということです。今回は、製造から販売工程のすべてを情報公開しているTOMATO畑とはどんなメーカーなのか、秀樹さんの仕事を通して紹介しましょう。

前号で初めてご紹介した「TOMATO（トマト）畑」のストップ薬剤・木製食器に大きな反響をいただきました。使い心地等皆様からいただいた多くのご意見は、TOMATO畑二代目の田中秀樹さんにお伝えしています。田中さ



▲早稲田自然食品センターでTOMATO畑の薬剤不使用・木製食器の説明販売をする田中秀樹さん(右)と、田中さんに安全・安心な木製食器と一般市販品木製食器との違いなどの説明を受ける店長の寺島真吾。

田中さんのお話を簡単におさらいしておきます。日常生活として、一般的に売られている一部の木製食器の一般的下処理は、木材に付着している微生物を駆除するために薬剤に浸け込み、さらに木のシミを抜くために漂白剤に浸けているということでした。また、下塗りや釉薬に使う漆やポリウレタンなどの

品質にも問題があると言います。

一方、TOMATO畑の製品は、伝統工芸職人である秀樹さんのお父さん、栄二さんとその仲間たちが、日本での木製食器づくりに飽き足らず、20年ほど前、安心して使える木製食器を作るために中国に工房を移し、薬剤や不要な塗料などは一切使わずに、手作りした安全・安心の木製食器です。

親たちの「良心」が作り出す安全な木製食器を、日本の消費者に届ける役を担っているのが田中秀樹さんです。

父の本音を知る

寺島 全国の自然食品店やこだわりの店でTOMATO畑の木製食器を取り扱うところが急速に増えていくと聞きますが？

田中 皆さんのお力が大きいと思います。自然食品店を中心としたお店の方々に、ストップ薬剤活

動に共感していただき、それが顧客の皆様へ伝わり、口コミで広めていただいていると思います。

寺島 一般市販品の実態を知ってしまおうと、それを大切な人たちに伝えずにはいられないのが自然食品店の仲間たちです（笑）。

ところで大手企業のエリートサラリーマンだった田中さんが、その職を捨て、家業を継いだのも根は私たちと一緒なのではありませんか（笑）。

田中 そうですね。父は私が高校生のとときに、安全な食器の製法を求めて中国に渡り、母も行ったり来たりを繰り返した後、結局移り住むことになり、けっして裕福な家庭ではありませんでした。

そんな生活を私は嫌い、「絶対に大手企業に就職して安定した稼ぎがほしい」と思い、大手商社に就職しました。

商社で実績を作り、その後は大手コンサルティング会社に転職しました。誰もが知るような大手企業の勉強会では、たかだか30歳前後の私が、経営指導の先生と呼ばれ、今振り返れば、自分を見失う



薬剤不使用・無漂白 総漆仕上げの食器

総漆ラウンドタイプ(メンズ)

商品番号

45235

¥1,860

農薬による殺菌・消毒をせず、巨大プールの中で約270℃の蒸気を24時間かけて煮沸する。

総漆ラウンドタイプ(レディス)

商品番号

45236

¥1,575



※カラーは—
色。画像とい
物の色合いが
多少違いま
す。

新発売

ほどの絶頂期だったのかもしれない。その頃、大手クライアント企業の中国工場視察に同行しました。たまたま父の工場が近かったので、初めて訪ねてみました。

十数年以上も、父や母が中国で食器を作っていること以外、どのような生活をしているのかまったく知らないし、あまり興味もありませんでした。とは言っても、近くに行ってみると、両親が今どんな状況で食器作りをしているのかと興味が湧き、3日ほど休暇をもらって、訪ねてみました。

寺島 どうでしたか？

田中 とにかく驚きました。

福建省の田舎も田舎。そんな所にそれなりの工場を中心とする村が出来ていて、大將が父なのです。わずか十数年の間に現地の職人を育てたことがわかりました。

こんな活動を父がしていたなんて、しかも現地の職人さんたちにとって、父はなくてはならない存在になっていたのです。

私が父を訪ねた頃は、TOMATO畑の食器なんか日本ではほとんど知る人もなく、当然殆ど売っていませんでした。だから父たちの工場は赤字続きで、持ちこたえられるのもあと三年が限界だと父は言いました。それを聞いて私は、「今までこれだけの取り組みをしているのに、何で状況を教えてくれなかったのか？」

と聞いたたら、

「未来あるお前達のため、そして母さんが安心して使えるためにも、無薬剤の安全な木製食器を作り続けることが私の使命だ。しかしお前にはこんな苦勞をさせたくないし、大手企業でがんばっているお前を誇りに思っている」と言われました。

その時初めて、子供たちを置き去りにしてまで中国に渡った理由と、毎年送ってくれた食器とともに「必ずこれを使うように、そして秀樹の大切な友人と愛する人にも使ってもらいなさい」と父が言い続けてきた訳がわかりました。

寺島 お父さんの人生をかけた

取り組みを初めて知った時の、田

中さんの胸のうちが伝わってくるようです。

田中 正直な話、私も衝撃を受けました。私達子供のため、そして何よりも、大病を克服した母(乳がんの末期を克服)のために、さらには無薬剤処理の、安心して使える木製食器を日本で普及させるため、中国へ移住したことの理由を知り、社会人になって以来初めて私は涙を流しました。

寺島 この時から田中さんの人生も変わった？

田中 父の本音を聞いてしまつた以上、「借金を抱える父の会社を何とかしなくては」と、私のコンサルタント魂が迷いなく退職させました。

寺島 「血氣盛ん」の行動力(笑)。

田中 そんなところです(笑)。退社と同時に福建省で全ての仕事の流れを体験し、「日本で自分が売りまくるから、どんどんない物を作ってください」と父やお弟子さんたちに大見栄を切って、日本の販売活動に入りました。しかし反応は、ひどいものでした。

(次号につづく)